

似て非なるもの

牡丹と同じボタン科の芍薬との違いがわかりますか。世の中には似て非なるものがたくさんあります。そして皮膚病にも、間違えやすいものがたくさんあるのです。

●湿疹と水虫

足がかゆいと、皆さんは水虫を考えるでしょう。汗で蒸れただけでも、足指の間は皮がむけてきます。水虫（足白癬）を確実に診断するには、顕微鏡検査が欠かせません。必ず皮膚科専門医を受診するようにお願いします。水虫は必ずしもかゆくないですし、かゆいから水虫というわけでもありませんので。

●マムシと青大将

咬まれると怖い毒蛇の話です。急なことで、どんな蛇に咬まれたかわかる人は多くありません。毒蛇のマムシは三角形の頭に黒い銭形模様が特徴ですが、無毒で青緑っぽい縞模様の青大将も時に似たように見えます。これは青大将がマムシを真似る擬態との説もあるようです。牙が皮膚に食い込むと毒が入り、出血が続いて急速に腫れが広がります。少しでも毒が回らないように軽めにしばって、飲んでも無毒化するので口で傷を吸い、急いで病院を受診してください。

●皮膚がん

どうなったら皮膚がんか？ひと言では答えられません。例えば悪性黒色腫（メラノーマ）とホクロの区別は難しく、見た目ではメラノーマを考えたら病理検査を行い、強く疑われれば集学的治療のできる大学病院へ紹介します。顔の皮膚がんは紫外線に関わることが多く、最初はカサカサして少し赤いくらいなので要注意です。陰部のパジェット病は浅いがんですが、赤や白に色が変わってジクジクし、長くなると深いがんに進展します。恥ずかしかったり、まさかがんとは思ってもよらず、診断が遅れることも多いです。気になる発疹ができれば、皮膚科医の眼を頼ってください。

●帯状疱疹

帯状疱疹は片側性の神経痛を伴います。頭や顔の三叉神経痛、胸の肋間神経痛、お尻の坐骨神経痛などでも、同じようにピリピリ痛みます。例えば頭痛を起こすのは、脳や肩も原因になるし、目の緑内障発作もあり得ます。このように痛みだけでは帯状疱疹と言い切れず、水ぶくれなどの発疹が出て初めて診断されることを知っておいてください。

●膠原病

膠原病は原因不明の全身性疾患ですが、皮膚科で発疹から診断につながることもあります。例えば、全身性エリテマトーデスの蝶形紅斑は頬や鼻、皮膚筋炎のヘリオトロープ疹は目のまわり、ゴットロン徴候は指や肘に赤っぽい発疹が出ます。全身性強皮症は、手が冷たく白くなるレイノー現象で見つかることが多いです。単なる湿疹や冷え性と片づけず、いつもと違う皮膚症状があれば、皮膚科を受診してください。早期発見が健康な人生につながります。

●プレゼンとプレゼント

一文字違いですが、プレゼントは品物を贈り、プレゼンは言葉を贈ります。プレゼンテーション（プレゼン）とは言葉などで情報を伝えて理解を得ることですが、その目的は聴くことでより良く変わってもらうことです。

●立てば芍薬、座れば牡丹

エレガントなこの言葉の意味はさておき、牡丹は木、芍薬は草です。どちらもボタン科に属し、英語ではともに peony ですが、葉やつぼみ、枝ぶり、そして開花時期も少し異なっています。コロナ禍のもと、不安な日々ではありますが、日本の季節の移ろい、自然の恵みを静かにじっくり味わってください。



【副院長兼皮膚科診療部長 岡田 克之】

